

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書

神経ベーチェット病レジストリの調査項目の再検討

廣畑俊成^{1,2}、菊地弘敏²、沢田哲治³、河内泉^{4,5}
信原病院リウマチ科¹、帝京大学医学部内科²、
東京医大 リウマチ膠原病内科³
新潟大 総合医学教育センター⁴、新潟大 脳研 脳神経内科⁵

研究要旨

本年度はベーチェット病レジストリ研究のため神経病変の **core-branch** について調査票の改定を行った。

A. 研究目的

ベーチェット病診療のレジストリ研究の基盤形成のため、神経病変についての調査項目のブラッシュアップと改定を行う。

B. 研究方法

昨年度作成したレジストリ研究のための調査票の項目について、神経分科会の委員の間でメールにて合議を行い、追加・改定を行った。

（倫理面への配慮）

今回の研究に関してはまた患者の個人情報 は全く扱わないので倫理上の問題が生じることはない。

C. 研究結果

調査票の改定案として、次に示す4点を決定した：

1. 脳MRIを撮影した場合は神経ベーチェット病の有無にかかわらず記載し、画像をアップする。
2. HLA-DRB1*0901の有無を記載する。

3. 急性型、慢性進行型に血清のIL-6を追加する。

4. 慢性進行型でMRI上のponsの面積をNIH imagerを用いて計算し、記載する。

D 考察

脳のMRIについては、慢性進行型や急性型以外の症例でも、コントロールとして使用することができると考えられることから、レジストリ登録項目に追加することが妥当であると考えられる。HLA-DRB1*0901の有無については、他にも遺伝子調査項目があるようであれば、そちらで対応可能であると思われる。血清のIL-6が慢性進行型や急性型の神経ベーチェット病のサロゲートマーカーになる可能性は十分あると考えられるので、調査項目に含める価値はあると考えられる。MRIでのponsの面積の計算については、T1強調画像の中央矢状断で行うのが簡便であるので、この断面を必ずレジストリに取り込む必要がある。

E. 結論

神経ベーチェット病のレジストリ研究の
ための調査票の改定が完成した

なし

2. 特許取得

なし

3. 実用新案登録

なし

4. その他

なし

N. 研究発表

1) 国内

口頭発表 0 件

原著論文による発表 1 件

それ以外（レビュー等）の発表 1 件

1. 論文発表

原著論文

1. **Hirohata S**, Kikuchi H, Sawada T, Okada M, Takeno M, Kuwana M, Kawachi I, Mochizuki H, Kusunoki S, Ishigatsubo Y. Recommendations for the Management of Neuro-Behçet's Disease by the Japanese National Research Committee for Behçet's Disease. Intern Med 59(19): 2359-2367, 2020, PMID:32611961

著書・総説

1. 廣畑俊成. 免疫性神経疾患 update IV. 特論 神経 Behcet 病・ガイドラインをふまえて. 日本臨床 78(11): 1931-8, 2020

2. 学会発表

3. なし

2) 海外

口頭発表 0 件

原著論文による発表 0 件

それ以外（レビュー等）の発表 0 件

1. 論文発表

原著論文

なし

著書・総説

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願、登録状況